

学校法人高崎健康福祉大学
高崎健康福祉大学短期大学部
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

高崎健康福祉大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 高崎健康福祉大学
理事長名	須藤 賢一
学長名	須藤 賢一
ALO	板津 裕己
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	群馬県高崎市中大類町58-2

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
児童福祉学科		100
	合計	100

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

高崎健康福祉大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 23 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、学校法人群馬女子学園を前身に持ち、折々の改組転換を経て単科の短期大学として今日に至っている。その教育理念として「幅広く深い教養と専門的知識と技術を持ち、豊かな感性と自主的精神に富み、健全な人生観に立った社会における指導的な女性を育成する」を掲げ、かつ「感謝、奉仕、融和」を教育指針にもち、今日まで営まれている。

基礎学力の習得に配慮し資格取得（保育士資格、幼稚園教諭二種免許状等）ができるよう教育課程編成に工夫がみられる。授業評価（アンケート）の集計結果は、全教員のデータが CD-ROM にまとめられ各教員に配布されるとともに、図書館にも備えられている。

専任教員数は短期大学設置基準を充足している。校地・校舎面積も短期大学設置基準を満たしており、施設設備は充実している。

教育目標に基づき、それぞれの授業が評価方法も含めおおむね適切に行われている。学生の授業アンケートはほぼ全科目で行われ、アンケート結果に基づき、教員による授業改善への取り組みも図られている。退学や休学等に対する指導・助言としてアドバイザー教員を配置し、カウンセリングルームも設置されている。

当該短期大学が求める学生像については、ウェブサイト、オープンキャンパス、入学予定者及び保護者を対象とする入学前スクーリング等で説明が行われている。学生生活支援として、併設大学と共通の学生寮が有効に機能し、当該短期大学独自の奨学金もある。就職支援については、キャリアサポートセンターを中心に充実しており、過去 3 年間就職を希望した学生の就職率は、ほぼ 100 パーセントである。

過去 3 年間で、ほとんどすべての教員が 1 編以上の論文を書いており、研究活動は活発である。個人研究費や研究成果の発表機会など、研究活動のための条件整備も十分に行われている。

社会的活動については、平成 18 年度に文部科学省からオープン・リサーチセンターとして助成金を受けて当該短期大学に設置された「子ども・家族支援センター」によ

る地域の母親と子どものケアへの取り組み、平成 19 年度に設置された「地域貢献推進センター」による公開講座実施、併設大学と共通組織の「ボランティア・市民活動支援センター」をつうじた学生のボランティア活動など、活発に行われている。

理事長（学長を兼務）は短期大学運営にリーダーシップを発揮し、理事会・評議員会、教授会は適切に運営されている。監事は、適切に業務を遂行している。短期大学部門の消費収支が支出超過となっているが、学校法人全体は健全な状態である。中・長期の財務計画について 5 ヶ年計画が策定されており、その目標や計画に基づいて財務運営が行われ、財務情報の公開も適切に行われている。

自己点検・評価活動が定期的に行われ、すべての教職員が自己点検・評価委員会にも参画していることから、教職員一体となって現状を認識し、改善に努めており、改革・改善に対し強い意欲が認められる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

（1）特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 施設設備は充実していて、在学生のほか、附属幼稚園の各種行事・園児運動教育等にも活用されており、学外者にも開放している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- キャリアサポートセンターにおける就職活動支援が充実しており、過去 3 年間の就職希望者の就職率は、ほぼ 100 パーセントである。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 子ども・家族支援センターは、親子ふれあい教室やベビークラスを通して地域住民の子育て支援を行っている。また園・学校生活における不適応（発達障がい等を含む）などの問題を持った子どもを持つ母親に対して、小児科医、精神科医、精神

保健福祉士、保育士などの有資格者がアドバイスをし、また学生たちが総合演習の一環としてかかわるなど、社会的活動を推進している。

評価領域Ⅸ 財務

- 蓄熱槽による床暖房システムや、エコアイスシステムによる冷暖房機器の効率的稼働及び電力使用量の抑制に取り組んでいる。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 資格を取得するため最低限取らなければならない授業（ミニマムカリキュラム）を、わかりやすく具体的に示されたい。
- 短期大学設置基準及び学則などに定められた授業回数の確保が望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学習支援を必要とする学生に対する取り組みである学習支援センター（併設大学と共用）について、利用時間等の工夫が必要である。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金があるものの、短期大学部門が支出超過であり、財務体質の改善が望まれる。
- コンピュータのセキュリティポリシーや、情報ネットワークセキュリティ対策等の規程整備が求められる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は学校法人群馬女子学園群馬女子短期大学を前身にもち、折々改組転換を経て、平成 21 年度児童福祉学科（入学定員 100）単科の短期大学として今日に至っている。

学園創立者須藤いま子の「幅広く深い教養と専門的知識と技術を持ち、豊かな感性と自主的精神に富み、健全な人生観に立った社会における指導的な女性を育成する」を教育理念に掲げ、「感謝、奉仕、融和」を教育指針として今日まで営まれてきた。

とりわけ創立者の意思を継承せんとする意思が強く、幼児世代の保育や教育及び福祉の分野で貢献する人材養成の役割を担おうとしている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

基礎学力を身に付けるために、選択 2 単位で「基礎Ⅰ（国語等）」と「基礎Ⅱ（数学等）」の授業を行い、保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、社団法人全国ベビーシッター協会認定ベビーシッター資格といった免許・資格が取得できる教育課程が体系的に編成されている。学生の学習意欲や幼保一元化が加速している状況に応じて、幼稚園教諭二種免許状は選択制とし、また「在宅保育論」等の授業を履修することによってベビーシッター資格が取得できるなど工夫されている。授業アンケートの集計結果は、全教員のデータが CD-ROM にまとめられ各教員に配布されるとともに、図書館にも備えられ公開されている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動は活発に行われているとはいえないが、他大学から講師を招いた講演会の実施や「シラバス・授業内容検討会」、授業公開も行われている。半期の授業を期末試験以外に 15 回行うこと

など改善すべき点はあるが、学生の状況を把握した上で、資格を取得できる教育課程の工夫等がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数は短期大学設置基準を充足している。校地・校舎面積も短期大学設置基準を満たしている。四年制大学、高等学校、幼稚園が併設されており、運動場・体育館・図書館・食堂・売店などが整備され、施設設備は充実している。図書館については、授業に関する参考図書も充実し、蔵書検索など利用しやすい状況となっている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標を明確に示した上で、それぞれの授業が評価方法も含めおおむね適切に行われている。学生の授業アンケートはほぼ全科目で行われており、学生の満足度はおおむね高いものとなっている。また、アンケート結果に基づき教員による授業改善への取り組みも図られており、アンケートの項目等も短期大学部自己点検・評価委員会で毎回検討が行われている。退学や休学等に対する指導助言としてアドバイザー教員を配置し、カウンセリングルームが設置されている。キャリアサポートセンターにおける就職活動支援などサポートも充実し、専門就職率も高い。同窓会との連携はないが、平成 21 年度には 1 期生～6 期生の全卒業生を対象としたホームカミングディが実施されている。

評価領域Ⅴ 学生支援

当該短期大学が求める学生像については、アドミッション・ポリシーとしての更なる明確化が望まれるものの、ウェブサイト、オープンキャンパス、保護者を対象とする入学前スクーリング、高校訪問等で説明されている。併設大学と共通の学習支援センターが開設されているが、開館時間の制約もあって支援は十分ではなく、工夫が望まれる。学生生活支援として、併設大学と共通の学生寮が有効に機能し、当該短期大学独自の奨学金も設けられ、学業成績が一定水準以上の学生に無利子貸与する学生支援奨学金制度もある。就職支援については、キャリアサポートセンターに求人票をはじめ施設案内などが地域別にファイリングされ、学生が自由に閲覧できる環境が整えられており、過去の各種採用試験の受験報告書も年度・種別にファイリングされ、学生が採用試験前に面接試験、実技試験、学科試験等の出題傾向を知るための参考資料となっている。過去 3 年間、就職を希望した学生の就職率は、ほぼ 100 パーセントである。

評価領域Ⅵ 研究

平成 19 年度から 21 年度までの研究活動（著書、論文、学会発表）をみると、ほと

んどすべての教員が1編以上の論文を書いており、教員の研究活動は活発に行われている。個人研究費は講師以上の教員に年額30万円が配分され、出張旅費や図書費に活用されている。研究成果を発表する機会として、『高崎健康福祉大学紀要』があり、研究活動のための条件整備も十分に行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動への取り組みとして、「地域貢献推進センター」が平成19年度に設立され、地域の人々への公開講座を提供している。また「子ども・家族支援センター」が平成18年文部科学省の助成金で設立され、地域の母親と子どものケアに積極的に取り組んでいる。さらに「ボランティア・市民活動支援センター」によって、学生のボランティア活動が活発に行われている。「花いっぱい活動」がその具体例で、毎年6月に地域の住民とともに川辺にコスモスの種を蒔いている。

オーストラリア海外英語研修旅行（併設大学主催）への短期大学生の参加は、平成20年度に1人であり、学生の国際交流への意識は高いとはいえないが、短期大学側がその参加者に対して補助を出している。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校教育法、私立学校法及び寄附行為を基に、管理運営の諸規程が整備され、学内諸会議も適切に開催・運営されている。理事長は当該短期大学及び併設大学の学長を兼務しており、重要案件の対応と理事会への審議が迅速に行われる学内体制が確立され、理事長のリーダーシップが十分に発揮されている。また、教授会の下に各種の委員会などが設置され、適切に運営されている。

事務組織については、規程に基づき合理的に組織されており、適切に運営されている。人事管理についても就業規則及び諸規程が整備されており、それに基づき適切に行われている。教職員の協力体制は、事務職員が学内諸会議に委員として参加しており、教員との連携もとれていることから、学生サービスにもその効果がみられる。

評価領域Ⅸ 財務

財務体質については、学校法人全体でみると十分健全な状態だが、短期大学部門については過去3年間消費収支が支出超過となっている。中・長期の財務計画については5ヶ年計画が策定されており、その目標や計画に基づいて財務運営が行われている。監事による監査業務、決算報告、各種法令にのっとり財務情報の公開などは、適切に行われている。

短期大学に必要な施設整備は整備され適切に管理されているが、コンピュータのセキュリティポリシーや、情報ネットワークセキュリティ対策等の規程が整備されておらず、早急に改善が求められる。防災委員の下、学生・教職員全員の避難訓練が行われており、積極的な取り組みが認められる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

教職員全員が当該短期大学の何らかの委員会にかかわり分掌活動をしている中で、すべての教職員が自己点検・評価委員会に参画していることから、教職員一体となって現状を認識し改善に努めており、改革・改善に対し強い意欲が認められる。

配布は学内にとどまっているが、平成 19 年度、20 年度に自己点検・評価報告書を作成し、定期的に自己点検・評価を行っており、改革・改善につなげていく意欲が認められる。

なお、平成 24 年 4 月、当該短期大学を併設大学の「人間発達学部子ども教育学科」として改組転換する計画を有している。